



スポーツ吹矢の魅力伝える伝道師

「吹矢というと肺活量が勝負と思われるが、実は全く関係ない。老若男女、障害のあるなしにかかわらず、誰でも楽しめるのが最大の魅力」

そう話す岡林寿男さんは、県内スポーツ吹矢界の第一人者。西日本で初めて師範に認定された腕前だ。初めてスポーツ吹矢を体験したとき、何といきなりパーフェクトに的の中心を射止めたことで、一気にはまってしまったという。

「スポーツ吹矢は世界に広まりつつある注目の競技。今後は国体正式加盟も視野に入れています」

愛するスポーツ吹矢の魅力をもっと多くの人に伝えたい。その情熱が、岡林さんの若さの源ではないだろうか。

『蕪生おばちゃんかるかん』食べてみて！

「蕪生おばちゃんかるかんは、安心・安全な地域の食材を使っています。お米はもちろん蕪生米。化学肥料なしの玄米粉です」

活動のきっかけは、『蕪生の里』から香北町のおみやげを商品開発してくれないかと頼まれたことだという。

「けんど、いまとなつてはこの集まりが毎週の楽しみになってね。かるかんを作る作業の合間には、お茶をしながらおしゃべりをしたり。嫌々やっても長続きせんかね。楽しまん！」

土産用のイチゴ味のかんや、白あんを巻き込んだロールかるかんなど、新商品も開発中。これからの“にろうまいこ”から目が離せない。

子どもたちの成長を見守り続けて10年

多くの車や人々が行き交う山田小学校前の交差点に、今日も子どもたちの元気な声が響く。

押岡憲亮さんは、ほぼ毎日のように交差点の角に立ち、子どもたちの登校を見守っている。

「仕事を引退して、学校や地域に恩返しというか、お役に立てることがあればと思って始めました。毎朝ほんのひとときのふれあいですが、子どもたちの成長を感じられてうれしいですね」

押岡さんは温かいまなざしで子どもたちを見守りながら、元気な声をかける。

「足が立つうちは続けていきたいです。子どもたちからもらう毎朝の笑顔は、何より私自身の生きがいでもありますから」

進化し続けるひょうたんランプの世界

公文さんがひょうたんランプを作り始めたのは5年前。千枚通しで穴を開け、色とりどりのビーズをはめ込んで模様を形作る。暗やみで灯りをともせば、たちまち幻想の世界に引き込まれる。

「もともと凝り性でねえ。奥が深いし、やればやるほどもっと良くなるとか、次はこうしてみようとか。年がたってから妙なことを始めたわね」

穏やかな語り口で、気負う様子は全くない。「売ってくれんろうかというような人もたまにおるけど、商売にしてしまうと責任も出てくるし。気楽に興味でやるばあがちょうどよ」

もっと作ってみたいものがある。そう話す公文さんの目は、少年のように輝いていた。

岡林 寿男さん

香北町美良布／74歳
スポーツ吹矢 師範

◆商工会香北支所…毎週水曜日と第2・4土曜日の18時30分から練習
◆商工会本所(山田)…第1・3・5土曜日の18時30分から練習
※お問い合わせは☎090-1571-4468(岡林)まで

にろうまいこ

香北町／平均年齢68歳
地場産品加工グループ



蕪生おばちゃんかるかんは、蕪生の里美良布直販店で販売中。優しい甘みと、ふわふわモチモチの食感がクセになる。2個入り250円／6個入り(箱入り)800円

押岡 憲亮さん

土佐山田町西本町／82歳
やまびこ会

やまびこ会は、地域で子どもたちを見守るボランティア団体。子どもたちの笑顔を守るために活動している。
【問い合わせ先】少年育成センター☎53-1083

公文 靖さん

物部町頓定／79歳
ひょうたんランプ作家

ひょうたんランプの展示はこれまで、市立美術館や市の文化展などで開かれてきた。次回の公開は未定だが、ぜひ一度、幻想的な光の世界を体験してほしい。